

# 岩城光英の永田町だより vol.226

永田町界隈では、マスク姿を多く見かけるようになりました。どうやら“院内感染”とでも言えるぐらいに、国会議事堂内で流行っているようです。夏の猛暑とその後の天候不順に加えて、疲労の蓄積で抵抗力が低下しているものかもしれません。皆様も、ご留意下さい。

予想されていたことですが、国会が終盤になって、大事な補正予算案を審議する予算委員会が荒れ模様です。これは、既にマスコミ報道で明らかなように、鳩山元総理や小沢元幹事長の、政治とカネに対する民主党の自浄能力の欠如、尖閣諸島での中国漁船衝突に関する一連の対応、ロシア大統領の北方領土訪問を許してしまう危機意識の欠如など、拙劣な民主党の政権運営が原因です。

特に、中国漁船のビデオ流出は国民に驚きを与えました。私達がここで考えるべきことは、ひとりの海上保安官の行為の善し悪しではなく、やむにやまれぬ行動にでた背景には何があったか、ということです。

同時に、国内的には公務員の綱紀粛正・倫理観の再構築は急務であること。そしてさらに、(つい先日もテロ情報の漏えいがあったばかりでもあり) 特に公安や防衛に関わる情報管理の徹底は、国際的な信用にかかわる重要な問題であることを、国民全体が強く認識することだと思います。

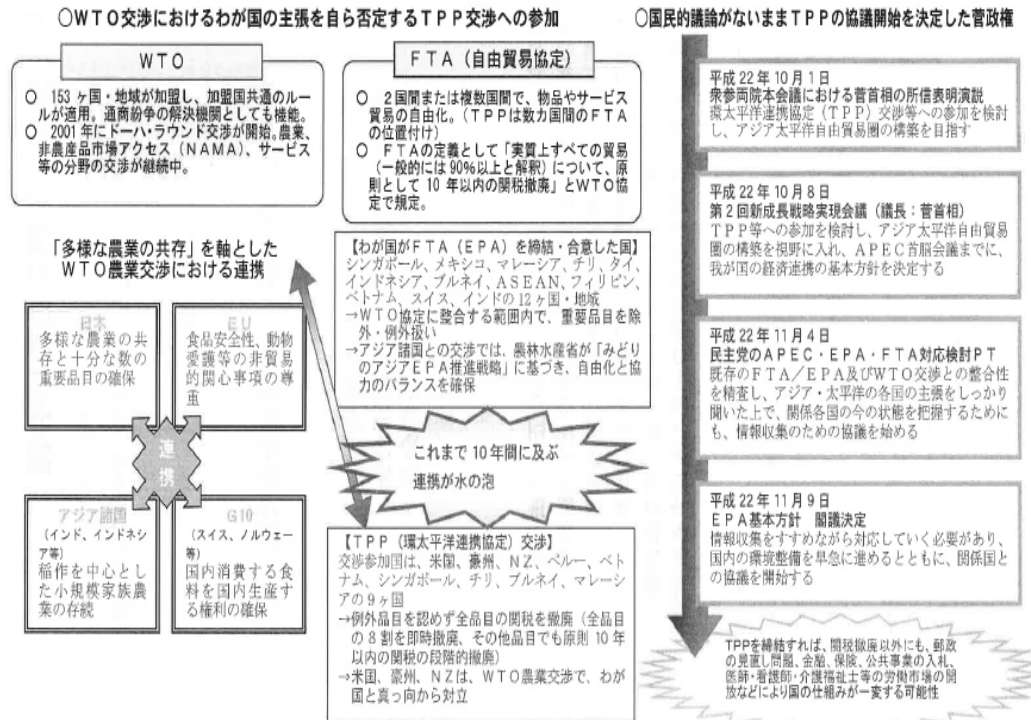
さて、TPP という文字が毎日のように耳目に飛び込んでまいります。今号では、TPP について考えてみたいと存じます。

## 「TPP(環太平洋連携協定)」に対する考え方について

自民党では、TPP参加の即時撤回を求める会を立ち上げ、この問題の不備を様々な角度から指摘しております。なぜなら、内閣は詳細を明らかにしようとしませんが、TPPの本質は、

### 1. 「多様な農業の共存」に向けた10年に及ぶ努力を無にする唐突な「基本方針」

- 10月1日、菅首相は国会で「環太平洋連携協定(TPP)交渉等への参加を検討し、アジア太平洋自由貿易圏の構築を目指す」と所信表明演説。以降、TPPに関して国内の議論が過熱。TPPは、関税撤廃の例外を認めない完全な貿易自由化であり、わが国農林水産業を壊滅に導くもの。
- 11月9日に閣議決定した「包括的経済連携に関する基本方針」では、TPPについて「関係国との協議を開始する」ととりまとめたが、正式な交渉参加国となるには例外なく関税撤廃する意思を事前に明らかにする必要。その時点で、非貿易的関心事項に配慮した農産物貿易ルールの確立に向けた、わが国のWTOドーハラウンド交渉における10年に及ぶ努力が水泡に帰すことになる。



農業に関わる関税撤廃のみならず、非関税障壁として、郵政の見直し問題、金融、保険、医薬品、公共事業の入札、医師・弁護士・会計士・看護師・介護福祉士等の労働市場の開放などを狙上へのせようとしているものだからです。このことは、ひいては、国民生活の安定が脅かされることに加え、この国の在り方が問われております。地方議会では反対の決議が続出してあります。

11月9日に閣議決定された「包括的経済連携に関する基本方針」には、次のようなことが記されております。我が国を取り

巻く環境と高いレベルの経済推進として、農業が貿易自由化により最も影響を受けやすい分野であること。農業従事者の高齢化・後継者難・低収益性などにより、将来の持続的存続が危ぶまれ、日本農業の潜在力を引き出す大胆な政策対応が不可欠であること。アジア太平洋地域が、政治・経済・安全保障上の最重要地域であり、この地域の安定と繁栄は死活的な問題と捉え、そして、自由貿易圏構想は、“**取り分け本年はAPEC議長として、同構想の実現に向けた道筋をつけるため強いリーダーシップを発揮することが必要である**”こと。

問題は、上記の太字部分にあり、横浜で開催されたAPECのために、TPPを進めるかのような考え方をしている、ということ。

拙速は取り返しがつきません。まず、協議開始の意向を撤回し、改めて十分な時間を取り、国民全体で議論を行うべきであると考えます。

## 「中国」見たまま

## 北野湘南

大都市では日本の高級マンション顔負けの超高層マンションの建設ラッシュで沸き立つが、都会から少し離れた農村では耕運機どころか馬や牛による農業。政府に都合の悪い話は、テレビ、新聞では全く報道されない。交通ルールは殆ど守られず日本人には反対側に渡るのさえ命懸け。多くの点で日本の常識は中国では通用しないのが実情だ。

1月ほど前、観光旅行でなく学术交流を目的に中国に2週間弱滞在した。中国の大都会だけでなく、地方にまで足を伸ばし、多い日には500~600キロも走る厳しい日程だったが、北朝鮮からロシアの国境線まで詳しく見ることができた。通訳が「数年前でしたら外国人には絶対に見せない場所」と説明するような地域にまで入って実情を見ることができた(今だったらスパイ

の疑いで捕まったかまじれないが)。まず驚くのは都会と地方の格差だ。

大都会では20~30階建てのマンションブームで日本の高級マンションより広く、豪華なものも少なくない。しかも、それが飛ぶように売れ、1~2年で倍近くにまで跳ね上がることも珍しくないことから投機用を買う人も少なくないという。その大都会の裏通りに朝市が立ち、新鮮な野菜、肉、魚などが売られているがそれを売りに来る農家の中には馬やロバを利用している人も少なくない。大都会を歩く女性たちのファッションは東京の銀座も顔負けだが、そんな生活ができるのは都会の一部だけ。何年か前に洪水に襲われたが、殆ど改修工事も行われていない地域に何度も遭遇した。その川辺では村の女性たちが集まって洗濯していた。農村部の多くの家は煉瓦積みの粗末なもの。都会のマンションとは雲泥の差だ。しかし、中国では農村の人間が勝手に都会に移り住むことは法律で禁止されている。開く一方の格差に農村部の不満が高まるのは当然だろうと肌で感じた。

都会の一流ホテルではNHKの国際放送なども見られるが、中国に都合の悪いニュースになると突然画面は真っ暗になる。新聞も政府の発表しか書かない。尖閣列島の問題でも中国の都合のよいようにしか報道されない。ノーベル平和賞を中国人が受賞したことを知っている人より知らない人の方が多いだろう。大都会は朝夕になると激しい交通渋滞となるが、その時には反対車線などお構いなしに車が走り、歩道もスピードを出した車が走り回り、危なくて歩道も歩けない。車も歩行者も交通ルールを全く守らない。街に出る時には「日本人は無理だから手を離さないように」と通訳に手を引いてもらった。

経済が急速に発展し、日本を抜いて世界第二位の経済大国になるだろう。だが、マナーなど多くの点で一流国とは程遠いというのが実情だ。